

指揮 & お話：青島広志

1955年東京生まれ。東京藝術大学および大学院修士課程(作曲)を首席で修了。修了作品のオペラ「黄金の国」(原作:遠藤周作)が同大図書館に購入され、過去2回の東京都芸術フェスティバル主催公演となる。作曲家としては「火の鳥」(原作:手塚治虫)、「黒蜥蜴」 「サド侯爵夫人」(原作:三島由紀夫)など、これまでに作曲した作品は300曲を超える。ピアニスト・指揮者としての活動も50年を越え、コンサートやイベントのプロデュースも数多くこなしている。テレビ「題名のない音楽会」「世界一受けたい授業」などに出演。他にもイラストや書籍執筆などの仕事も数多く手がけている。東京藝術大学元講師、聖徳大学客員教授。日本現代音楽協会、作曲家協議会、東京室内歌劇場会員。



テノール：中島 康晴

日本を代表する国際的テノール。東京藝術大学声楽科を首席で卒業、同大学院在籍中に日伊声楽コンクール、イタリア声楽コンクールで優勝。リクルート及びローム奨学金を得てミラノ国立音楽院に留学、数々の国際コンクールに入賞後、ヴェルディ『オベルト』で日本人テノールとして初めてオペラの殿堂スカラ座に26歳の若さで主演。これまでR.シュトラウス『ばらの騎士』、ゼッフィレリ演出ブッチーニ『ラ・ボエーム』、ドニゼッティ『パリ伯爵、ウーゴ』、R.ムーティと共演したヴェルディ『2人のフォスカリ』とシーズンオープニング公演ロッシーニ『モーゼとファラオ』、ロッシーニ『セヴィリアの理髪師』7演目でスカラ座に主演。その他ドニゼッティ歌劇場、ヴェネツィアのフェニーチェ歌劇場、パルマ王立劇場、ジェノヴァのカルロ・フェリーチェ劇場、アンコーナ・ミュゼ劇場、ヴェローナ・フィルルモニコ歌劇場、ペーザロ・ロッシーニフェスティバルなど数々の名門イタリア歌劇場、フランクフルト歌劇場、ミュンヘン・ガスタイクホール(ミュンヘン放送管弦楽団)、トロント・カナディアンオペラ、ボストン・リリックオペラ、デトロイト・ミンガンオペラなど世界の歌劇場で活躍。世界でも数少ない確かなベルカント発声の技術と幅広い音域、特に中・高音域の美しい響きは海外でも高い評価を受ける。二期会会員。



管弦楽：

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

Tokyo City Philharmonic Orchestra

1975年設立。現在、常任指揮者に高関健、首席客演指揮者に藤岡幸夫を擁する。年間100回を超える公演は、定期演奏会のほかオペラ、バレエ、テレビ出演、CD録音までその活動は多岐にわたる。1994年から東京都江東区と芸術提携を結び、ティアラこうとうを主な拠点として地域に根ざした音楽



文化の振興を目的に幅広い活動を行っている。2021年5月には桂冠名誉指揮者飯守泰次郎の傘寿記念として「ニーベルングの指環」ハイライト特別演奏会(演奏会形式)を開催し、2022年8月に第30回三菱UFJ信託音楽賞を受賞。2025年4月に楽団創立50周年を迎え、さらなる活躍がもっとも期待されているオーケストラである。